

活動名：食と農の未来を育む～食と農デイキャンプ～

実績：108千円

【内訳】

印刷費 77千円
謝礼 18千円
消耗品費 13千円

【活動目的・背景】

国のみどりの食料システム戦略では、持続可能で環境負荷の低い食料システムの構築を目指しており、「生産」「流通」「消費」の各ステージで環境負荷を低減する取り組みが推進されています。

そこで市では、地元の子どもたちが、環境に配慮した農業に取り組む生産者や流通事業者、料理人等について学び体験する、子ども向けの食育デイキャンプを実施しました。

【活動内容】

農業体験では、飛騨市河合町の有機トマト農家を訪問しました。農家さんの思いやこだわりを知り、自然由来の土づくりなどについて学びました。その後、地元の有機食材なども積極的に活用されているカフェの方にもお話いただき、昼食には、有機食材や地元食材をふんだんに使った特製ランチを食べました。流通に関しては、有機トマトも取扱っているJAひだ吉城営農センター、そして飛騨産直市そやなの現場見学をしました。

開催概要

- 開催日 令和6年7月31日(土) 9:00～15:30
- 訪問場所 長尾農園（河合町稲越）、友雪館(NOASOBIカフェ)
JA吉城営農センター トマト選果場・飛騨産直市 そやな
- 対応者 長尾 隆司(長尾農園)・NOASOBIカフェ店主 尾崎夫妻
JAひだ吉城営農センター塚野氏、飛騨産直市 牧ヶ野店長
- 参加 小学生9名・その保護者6名 計15名

【成果】

このイベントを通じて、子どもたちは、実際に圃場で農家さんの話を聞くことで、土や草や虫の働きを知り、子ども達からも農家さんへの質問も沢山あり、環境に優しい農業や畑から食卓までの一連の流れも学ぶことができました。

参加された保護者からは、農家さんや料理人との交流により、有機農業の大変さや携わる方の思いが分かり、大変勉強になったとのお声をいただきました。

有機農業や環境に配慮した食料システムへの理解も深まり、産地や生産者を意識して食材を選ぶきっかけ作りができました。



上：有機トマトの生産者訪問

下：有機食材も使った特製ランチ

上：JAひだトマト選果場

下：飛騨産直市そやな見学